



日本キリスト教連合会 委員長

大柴 讓治 (日本福音ルーテル教会 総会議長)

世界を包む祈りを捧げよう

「恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。」

(イザヤ四三・一)

私たちの主イエス・キリストによってひとつの公同の教会に呼び集められている皆さま。

4年間にわたり日本キリスト教連合会委員長を担われた日本基督教団の石橋秀雄総会議長の後任として、この6月に委員長に選出された大柴讓治です。現在日本福音ルーテル教会(JELC)の総会議長ならびに大阪教会の牧師をしています。その責任の重さに恐れとおののきを覚えるものですが、「主の山に、備えあり」(創世記二一・14)と「インマヌエル」(マタイ・二三)、そして「わが恵み、汝に足れり」(IIコリント二・9)という三つの天からの声に信頼して、皆さんと一緒に務めを果たしてゆきたいと念じています。

現在 COVID-19 によるパンデミックによって全世界がその根底から大きく揺さぶられています。先の見えない恐れと不安の中で私たち自身も自らの無力さを味わっています。今まで自明なこととしてきた聖徒の交わりも有り難い恩寵であることを知らされました。しかしこのような状況においてなおも私たちに何ができるのか、神が私た

ちをどう用いようかとされているのか、その御心を祈り求めてゆきたいのです。「み国が来ますように。み心が天に行われるとおり地にも行われますように」(主の祈り)。主の祈りは、今この瞬間にもどこかで誰かが祈っている祈りです。この祈りには力があります。それは「世界を包む祈り」であり「世界を守る祈り」でもあるからです。

第二次大戦中にドイツのデイトリッヒ・ボンヘッファーは教会の使命として「祈ることと正義を行うこと」を掲げました。また、昨年11月に来日されたフランシスコ教皇は野戦病院としての教会の務めについて語られました。今もこの世界の中で不当な苦しみや悲しみ、嘆きや怒りのただ中に置かれた者たちの側に立ち、その「深いあわれみ(コンパッション)」のみ業をなしておられる私たちの主イエス・キリスト。現実の闇がどれほど深くとも、私たちは「恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの」と呼んでくださる神の声に信頼して、「分断」や「孤立」ではなく、「和解」と「連帯」を求めてゆきたいと思えます。主が私たちをこの地上において「地の塩、世の光」として用いてくださいますように、諸教会の上に天からの祝福をお祈りいたします。

コロナ禍にどう向き合う 新しい教会のあり方は……

コロナウイルスの感染拡大は、かつて経験したことのない事態として私たちの前に立ちはだかっています。それぞれの教団・教派でも工夫をこらし、対策を打ち出しています。今回、3つの教団の取り組みを紹介していただきました。



カトリック教会の取り組み 常任委員 大水 文隆

日本のカトリック教会としてのガイドラインはありませんが、東京都と千葉県を管轄するカトリック東京大司教区は、インターネット上のサイトを通して定期的に情報を発信し、対応を呼び掛けています。1月31日の感染症に伴う注意喚起に始まり、2月下旬には公開のミサの原則中止、6月21日には教会活動の再開に向けて4つのステージを提示しています。

一連のお知らせの中で特に印象的なのは、科学的なデータと教会文書を用いて対応の根拠を示していることです。もちろんそれは大事なことですが、説明というよりは説得に近

いものを感じます。コロナ禍にあって、亡くなられた方や遺族、経済的困窮者、医療従事者や保健師のために、今こそ細心の注意を払って集まり、神に向かって祈る必要があるという方もいらっしゃるし、その考えも理解できます。しかし同時に、キリスト者も社会の一員として、感染しない、感染させないことで、いのちを守る責任を果たす必要があります。

教会で責任を負う立場のかたがたは、必死で情報を集め、迷いながらさまざまな判断を下しています。聖霊の照らしと導きがあるよう、祈るばかりです。

日本同盟基督教団の取り組み 常任委員 廣瀬 薫

活動の多くが教会の主体性に委ねられますので、教会によって、地域によって、規模によって、対応には多様性が見られます。一方には、信仰生活の中心である礼拝を守り続けると決断し、それに伴う様々な工夫を尽くす教会があり、他方には、隣人を愛するが故の決断として、礼拝に集まることを中断してオンライン礼拝や説教の配布等で対応する教会があります。理事会は対策本部を設置し、ウェブ上に情報共有のページを設けて諸教会の対応状況を分かち合えるようにし、経済的にひっ迫した教会への資金貸付を行うなどの対応を通知しました。会議のほぼ全ては

オンラインです。これは、今まで行って来た礼拝や活動の本質は何かを考えさせる機会となっています。新型コロナウイルスのためにできないと言うのではなく、新たな方法によって同じ本質を実現する工夫が大切だと受け止めています。例えば、訪問はできなくても、オンラインで顔を合わせて祈り合い励まし合う機会をかえて増えています。オンラインだと遠方も含めてむしろ参加者が増える等の意外な喜びも経験しています。伝道部は現地に行けなくてもオンラインのキャラバン伝道を企画しています。どんな状況でも、教会の本質を発揮すべく、日々知恵を絞る時だと思っています。

2020年度 日本キリスト教連合会 総会の報告



2020年4月23日(木)に西早稲田の日本基督教団会議室に集まって開催する予定でしたが、コロナ禍によって中止となり、常任委員会一任となりました。常任委員も一堂に集うことはできず、オンラインによる会議で、開催予定日の午後1時半～3時に、開催しました。定足数については、常任委員7名他、委任状33名、計40名(議員総数66名 定足数34名)を確認、総会の成立と開会が宣言されました。

主な議事は以下の通りです。

「2019年度会計決算承認の件」については、コロナウイルス感染拡大状況の中で、監査が行われていないことも併せて報告され、監査が実施されるまで、仮承認とする提案が道家副委員長よりなされました。2019年度決算は後日精査し、監査を経て以下のように

確定しました。合わせて予算案と分担金の減額についてお知らせします。

2019年度収入合計 2,243,200円
前年度繰越 3,194,139円 合計 5,437,339円

2019年度支出合計 2,325,455円
次年度繰越 3,111,884円 合計 5,437,339円

2020年度予算 支出合計 3,275,200円

*内訳にはオリンピック宗教センター費(100万円)が含まれています。

*なお、2020年度の分担金は基準額の50%にすることが決議されました。

日本キリスト教連合会の常任委員については委員長に大柴譲治(日本福音ルーテル教会)が副委員長に滝田浩之(同)が選任されました。

日本福音ルーテル教会が当番教団となるにあたり、日本福音ルーテル教会事務所内(市ヶ谷)に変更することを承認しました。

日本基督教団の取り組み 常任委員 道家 紀一

今年の2月20日付の厚生労働省からの新型コロナウイルスに関する見解の発表を受けて、「新型コロナウイルス感染症に関する注意喚起について」(第一信)を3月6日付で出しました。この時点では、三密や換気などに気をつけながら継続可能と考えていました。しかし、感染拡大が進むにつれて、第二信(3月27日)、第三信(4月10日)を出し、教会に集っての礼拝および集会については強く自粛をお願いすることになりました。合同教会としての日本基督教団は、全国に伝道地が広がっており、教団の組織上、一律の自粛要請はできない状況にあります。

4月に始まった「緊急事態宣言」の期間、礼拝施設に集っての礼拝を続ける教会、オンラインで礼拝に取り組む教会、まったく閉鎖する教会など、それぞれ異なった対応が続けられました。5月末の解除に伴い、第4信(5月29日)として、礼拝などの教会活動を、元に戻して行くことを勧める声明を出しましたが、未だ全教会(1685教会伝道所)が完全に復帰しているとは言えない状況です。

今後、各個教会の、特に財政状況を調査し、牧師謝儀など必要な援助を行うこととなります。長期戦になることを予想して、総額1億円の準備金を用意して対処するつもりです。



日本キリスト教連合会

News

重要なお知らせ！

2020年秋の 法人事務・会計実務研修会は 中止します！

毎年、多くの参加者の皆さまと学んできましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、今年の秋の研修会は中止することにいた

しました。参加を予定しておられた皆さまには本当に申し訳ございません。来年はぜひ開催したいと願っております。ご期待ください。

2020年度の加盟教団・教会 分担金は 50%減額にいたします

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大のために総会がネットと書面によって行われました。秋の法人事務・会計実務研修会も今年取り止めることになりました。例年です

と年3回実施していた定例講演会も開催が困難な状況です。活動縮小の事態を踏まえて、今年度の分担金を半額にすることにいたしました。今後ともご協力をお願いいたします。

編集後記

今年は年初から何もかも中止に追い込まれ、ご報告する内容がありません。そのような事情で8ページの「会報」を4ページにしました。今回は3つの教団から新型コロナウイルス感染への対応を書きいただきました。それぞ

れ複雑な対応を迫られる中ですが、少しでもご参考になればと願っております。また事務局が変わりました。日本基督教団から日本福音ルーテル教会に移ります。巻頭言には委員長に就任された大柴譲治先生のご挨拶の一文を掲載しました。(編集担当 矢木良雄)

●日本キリスト教連合会役員 (2020年度)

- 委員長 大柴譲治 (日本福音ルーテル教会)
- 副委員長 滝田浩之 (日本福音ルーテル教会)
- 常任委員 久保公平 (日本バプテスト連盟)
- 道家紀一 (日本基督教団)
- 矢萩新一 (日本聖公会)
- 広瀬 薫 (日本同盟基督教団)
- 本田勝宏 (日本アッセンブリーズ・オブ・ゴット教団)
- 大水文隆 (カトリック中央協議会)
- 矢木良雄 (イムマヌエル綜合伝道団)

*日本キリスト教連合会へのお問い合わせは162-0842

東京都新宿区市谷砂土原町1-1 日本福音ルーテル教会内「日本キリスト教連合会」へ。

▼日本キリスト教連合会の主な活動

- ・年6回の常任委員会
4月、5月、7月、9月、11月、2月(変更あり)
- ・年2回の定例会(2月と9月に開催)
- ・法人事務・会計実務研修会(秋に開催します)
- ・「会報」を随時発行し、情報をお届けします

